

令和3年度 酒田西高校定時制の課程 学校評価書 （自己評価・学校関係者評価）

教育目標			重点目標		達成度	
1 感性豊かで思いやりのある心を持つ人間を育成する。			1 基礎学力の定着・向上と「よりよく生きるための力になる勉強」という視点からの学習指導		A 達成している	
2 社会において豊かに生きることができる基礎的な能力を持った人間を育成する。			2 人間関係形成能力の育成		B おおむね達成している	
3 逞しい気力と体力を育て、地域社会に貢献できる人間を育成する。			3 安心・安全な学校づくり		C あまり達成していない	
			4 特別支援教育体制の充実		D 達成していない	
			5 新教育課程に向けた準備の推進			
	Plan		Do	Check	Action	学校関係者評価
	教育目標・方針・重点目標実現に向けた取組課題・具体的方策		目標の達成状況 達成にむけた取組み状況と分析	評価	○成果 成果と課題 ・課題	意見・要望・評価等
1	基礎学力の定着・向上	放課後等の有効活用を進め、個々のニーズに応じた指導の充実	・放課後の時間帯を有効活用し、個々の学力やニーズに応じた個別指導を特別支援教育員や図書館事務補助からの協力も得ながら実施した。 ・各種資格試験受験者に対しても、放課後の個別指導による丁寧な対応によって多数の生徒が合格した。 ・生徒個々の学力差への対応は、各教科で苦慮しているがTTIによるサブティチャーが支援を要する生徒へ手厚く対応することで、授業内容を効果的に展開できた。 ・3年次は、次年度の就職活動に向けた早期の取り組みとして朝学習を12月から開始した。	B	○放課後に残って学習する生徒が増加し、着実な学力の向上が見られた。 ○生徒同士が教えあう場面も見受けられ、学習環境の雰囲気が醸成されてきた。 ○各種資格試験では、希望者に個別指導を実施し多数の生徒が合格した。 ○3年次の朝学習への取り組みもおおむね良好である。 ・今後も多様な支援の必要な生徒が増えることが予想されるので、教職員間での情報共有、連携を密にすることで迅速な対応を図っていくことが肝要である。 ・図書館について、利用目的の整理と周知を継続的に生徒に喚起する。	○「総合的な探究の時間」の発表会に参加させていただいたが、着眼点に独創性があり興味深く拝聴させていただきまし
2		進路希望や興味関心などを足がかりとした学習意欲の向上	・入社試験、入学試験、各種資格試験、高卒程度認定試験に個別の対策を講じた。 ・生徒個々の状況に応じて面談を実施し、様々な場面で年次や課を超えた教職員によるアドバイスを行った。 ・定期的な進路希望調査(年3回)を実施し、生徒の進路状況を把握できた。 ・進路ガイダンスや外部講師を招聘しての進路講話により、生徒の進路意識が高揚され学習意欲の向上が感じられた。	B	○卒業予定者は、全員進路決定した。 ○資格検定試験にチャレンジする生徒が増えてきている。 ○自衛隊希望の生徒に、自衛隊の方から来校していただき直接指導を受けた。 ・「総合的な探究の時間」を活用したキャリア形成を図る。 ・4年間(3年間)を見据えた進路指導計画の明確化。 ・年次途中での専門学校等への進学者への対応。	○アンケートの結果が昨年度以上に大きく改善されて大変ありがたき思い ました。日々の教育活動の積み重ねの結果ではないでしょうか。
3		「生徒の授業評価」等を活用した授業の改善と、探究的・体験的な学習機会の拡大	・「生徒の授業評価」を実施し、良い面、改善すべき点を確認し授業改善を図った。 ・ICTを活用し、視覚的に把握しやすい授業になるように取り組んだ。 ・2回目は2月に実施した。 「総合的な探究の時間」の中間発表会を文化祭時にポスターセッションを中心に実施した。 ・「総合的な探究の時間」の発表会では、感染急拡大のためオンライン形式に変更し実施した。	B	○全体としては、前年度の授業評価より値が向上している。 ○「総合的な探究の時間」の発表会は、直前ではあったがオンライン形式での実施に変更、初めての取り組みとなったが生徒の反応もよく素晴らしい発表会となった。 ・2月に2回目の「生徒の授業評価」を行い、集計結果を踏まえ各教科で改善策を検討した。 ・オンライン形式等、ICT機器を活用した授業への更なる取り組みの推進。	
4		効果的なチーム・ティーチングのあり方の検討	・担当する授業時数が増えたが、ほぼ全教科で実施できた。 ・サブティチャーの存在によって、支援を要する生徒へきめ細かな対応を図ることにより授業内容を効果的に展開することができた。	B	○TTを組むことによって、習熟度別の授業を展開したり、個別指導ができた、特別な配慮を必要とする生徒にも対応できた。 ○きめ細かな指導につながり、実験も生徒共々落ち着いて取り組むことができた。 ・TTによる基本ラインを確認し、効果的な指導について共通理解を図ることが求められる。	
5	人間関係形成能力の育成	コミュニケーション能力・自己表現力の育成	・生活体験発表会、文化部作品発表会、探究発表会、プレゼン実習、各種学校行事等で発表する機会によってコミュニケーション能力、自己表現力の育成が図られた。 ・授業等で発表する機会を設け、表現する力の育成に努めた。 ・学校行事、講話等後に作文を書くことにより、語彙力、表現力の育成を図った。	B	○回を増すごに発表に慣れた生徒が多く見られた。 ○ICT機器を用いて発表することを楽しんでいる生徒が多く見られた。 ○良好な対人関係を意識することができ、自分の気持ちをうまくコントロールできるようになった。 ・発表会や行事を欠席する生徒に対する対応(クラスの協力関係等)。	○「コロナ禍でも可能な地域交流の在り方の検討」という課題が挙げられていたが、「オンラインによるインタビュー取材」は良いアイディアだと思います。
6		学校行事、生徒会行事、部活動の充実と、自主的・自律的行動力の育成	・「身につけてほしい力」のアンケートを2月に実施し、個々の生徒の傾向を分析、理解し指導した。 ・部活動では、定通総体後も定期的に活動した運動部があった。 ・スポレク等で、生徒会執行部を中心に企画運営することができた。 ・生徒数の増加に伴い、部活動の在り方を検討した。	B	○スポレク等では、自分たちで企画を考えていこうとする主体的な姿勢が見られた。 ○定通総体後も定期的な活動を行い、生徒たちの意欲向上につなげることができた。 ・生徒会執行部内でのコミュニケーションとリーダーシップの育成が急務。 ・生徒が主体的に活動できる(目標達成の在り方)の価値を見つけ取り組むような指導の工夫が必要。	
7		地域と連携した教育活動の推進	・コロナ禍で文化祭が部活動で作成した作品展示のみとなり、学校企画やコミセン企画等で地域住民との交流も不十分ではあったが実施できた。 ・酒田市と連携した海岸清掃活動の実施、また、遊佐町の協力のもと郷土の歴史を学ぶ体験ができた。 ・学校行事や生徒の活動状況をHPで随時更新し、保護者、地域に情報発信した。	B	○庄内海岸でのゴミ問題について、NPO法人パートナーシップとの連携による事前講義によりSDGsにも関連付け考えを深めることができた。 ○昨年度以上にHPを活用した情報発信ができた。 ・コロナ禍でも可能な地域交流の在り方の検討。(地域で活動する方にオンラインでインタビュー取材等)	・オンラインだからこそ場所を越えてつながりやすい部分もあるので、地域活動している大学生へのインタビューや交流したい等の要望があれば是非相談してください。
8		進路意識向上のためのキャリア教育の充実	・進路ガイダンスを随時実施し、キャリア教育の醸成を図った。 ・3年次では、個別キャリアカウンセリングや就職活動のスケジュール等に関する進路ガイダンスを実施。 ・外部講師を招聘してのガイダンスや研修、進路指導主事を中心とした効果的な指導が行われた。 ・卒業見込みの生徒6名による「先輩からの講話」をオンライン形式に変更して実施し、後輩生徒へのアドバイスと激励を行い進路意識の高揚につなげた。	B	○進路講話・ガイダンスの実施により生徒への働きかけが積極的に行われた結果、生徒の進路意識の向上が見られた。 ○「先輩からの講話」は感染急拡大のためオンライン形式に変更しての実施となったが、後輩から多数の質問があるなど関心意欲の高さを感じらる有意義な講話となった。 ・キャリア教育の「総合的な探究の時間」の取り組みによる育成が急務。	
9	安心安全な学校づくり	「新しい生活様式」を踏まえた、安全かつ安心な学習環境の整備	・教職員による日々の校内除菌、消毒液の設置による手指消毒、登校時の検温、換気を共通理解の元継続して取り組んだ。 ・教室等へのCO2濃度測定器の購入設置により、効果的な換気の実施に取り組んだ。 ・毎月の学校安全点検を実施し、日々の安全、安心な学習環境の整備を実施した。	B	○「新しい生活様式」を踏まえ、全ての学校行事を実施できた。 ○感染急拡大により、急ではあったが教職員の連携によりオンライン形式に変更し無事に学校行事を実施できた。 ・冬期間における教室の換気は、CO2濃度測定器を活用し効果的に行う。	○CO2濃度測定器の導入等、感染防止対策をしっかりと実施している。
10		特別支援教育への理解に基づいた生徒理解の深化と、組織的な支援の充実	・定例職員会議での生徒情報交換により、情報の共有や連携を確認することで生徒理解を深めた。 ・10月からは2名の生徒に対して通級指導「ライフスキル」を開始した。 ・オンライン研修への教職員の参加と、9月には新潟大学の長澤先生、1月には「こころの医療センター」東海林診療部長による研修会を開催し、特別支援教育に関する知識、理解を研修した。	B	○学習支援員が通年配置され、授業以外でも支援活動の協力を得て成果を上げた。 ○通級指導「ライフスキル」を受けている生徒のコミュニケーション能力や困難に直面した際の対処法が向上している。 ・グレーゾーンの生徒への指導は「若者サポステ」との連携が必要である。 ・多様な支援を要する生徒への教職員の対応、スキル向上を図る研修の実施。	○保護者への丁寧な対応等、学校と保護者との良好な関係を感じる。
11		感染症対策も視野に入れた健康教育の充実と自己管理能力の育成	・10月には地震災害を想定した避難訓練および防災学習会を実施し、自助、共助、公助の理解と自己管理能力の育成を図った。 ・毎月の「保健だより」の発行と階段協の「ブラックボード」を活用し、自己の健康管理、感染対策の注意喚起を行った。	B	○避難訓練と「防災学習会」の組合せによって、地域の防災活動の取り組みを学びながら自分の命を守る行動と重要性について理解を深めた。 ○「保健だより」をHPに掲載し、保護者への周知を図った。 ・近年は想定外の災害が発生しており、地震、火災以外の避難訓練の検討。	・HPによる情報発信していることをしっかり保護者へアナウンスしていただきたい。
12		保護者との信頼関係の強化に向けた努力の継続	・担任と保護者間の連絡を密にとり、連携を深めた。 ・PTA広報誌(はまなす)と学校通信(きらり)の発行、HPを有効活用したタイムリーな情報発信を行った。 ・「マメール」への未登録保護者に対する登録依頼を随時案内した。(66% 35/53名)	B	○担任を中心に、生徒の状況を電話等で連絡、報告するなど、保護者との共通理解を図った。 ○生徒の特別指導については、適切な初期対応と丁寧な保護者への説明で円滑な指導につながった。 ・緊急連絡対応のため、「マメール」の保護者全加入に向けた方策。(新入生ガイダンス時のアナウンス)	
13	特別支援教育体制の充実	通級指導教室の実施に向けた校内体制の整備	・通級指導専用教室(小会議室)を確保し、必要物品を準備し環境を整備した。 ・適応指導委員会を中心に個別支援計画を作成し、教職員による研修会を実施し情報共有を図った。 ・通級指導「ライフスキル」により、2名の生徒に通級指導プログラムを実施し成果を上げている。 ・校内研修会を実施し、指導経過、共通理解を図った。	A	○通級指導プログラムを受けている生徒のコミュニケーション能力や困難に直面した際の対処法が向上している。 ○校内研修による情報共有と指導方法について、教職員による共通認識を確認できた。 ・次年度以降、該当生徒が増えた場合の校内指導体制の検討。	○教員が特別支援教育に対する様々な研修を実施しており、指導する教員の意欲が感じられた。
14		外部専門家等を活用した研修機会の充実による教員資質の向上	・コロナ禍によるオンライン研修となったが、9月に新潟大学の長澤先生による校内研修会を実施し特別支援教育に関する知識を学び資質向上につながった。また、地域の高校、中学校へアナウンスし参加を募った。	B	○多数の研修会を開催し、発達障がいの種類・特性やインクルーシブ教育について研修した。教職員の意識も高く、多数の研修会への積極的な参加が見られた。 ・入学生と転編入生の特別な配慮を必要とする生徒の増加により、更なる教員の資質向上が急務。	・全教員が特別支援教育を実践できるよう研修会等の継続した取り組みをお願いしたい。
15		行政、医療、NPO等関係機関との連携の強化	・1月には「こころの医療センター」東海林診療部長を招聘した研修会を開催し、特別支援教育に関する知識を学び資質向上につながった。 ・昨年度に引き続き、訪問看護リハビリテーション「アジュダント」から作業療法士2名が来校し、継続的な指導を行った。(2回目は、コロナ感染拡大のため中止) ・酒田特別支援学校を訪問し、特別な支援を要する生徒の就労に関する「ケース会議」を開催した。	B	○青年期の精神疾患や薬物療法の基礎知識について研修できた。 ○作業療法士から、「昨年と比較すると通級指導の2名の生徒について効果」があるとの報告があった。 ○酒田特別支援学校による「ケース会議」にて、サポート体制等有用な助言があり今後に活用したい。 ・酒田特別支援学校や作業療法士との継続的な連携。 ・庄内障がい者就業、生活支援センター、庄内地域若者サポートステーション等との連携。	
16	新教育課程	生徒の状況分析と、新教育課程実施に向けた準備の推進	・教科により、新学習指導要領に対応した学習評価「観点別評価」を先行実施した。 ・新たに定通併修に関する確認と規定を定めた。	B	○教科による学習評価「観点別評価」の先行実施により、次年度に向けた確認・改善が図られた。 ・新学習指導要領の観点別評価について、再確認のための校内研修会の実施。 ・「主体的・対話的で深い学び」に関する授業の取り組み。	・ICT機器を積極的に活用した授業の実践。
自己評価及び学校関係者評価の改善点			・自己評価については、昼間定時制への移行による影響がある『食育』に関する内容を精選する。 ・学校関係者評価については、評価者の意見や要望・評価が充分伝えられるよう改善する必要がある(様式の工夫)。			

総括

・生徒数の増加に増加に伴い、一人一人の基礎学力の習得状況にも大きな個人差が予想される。個別最適な学習方法への工夫が求められる。

・コロナ禍におけるインターンシップや実習等をオンラインで現場をつなぎ、説明を聞いて学習したり課題を提出するグループワーク⇒発表を取り入れるよう検討する。

・今後もHP等による積極的な情報発信と発信の仕方や方法等の更なる改善を検討する。
・緊急連絡用「マメール」へ保護者が全加入できるよう検討する必要がある。

・特別な支援を必要とする生徒へのアセスメントを実施し、全教員が共通理解のもとで指導する体制を確立する必要がある。

・生徒一人一台端末を活用できる体制整備。